

重点目標	地域とともに生き、地域に貢献する学校づくりの推進	P
現 状	1 昨年度までの特別支援学校共生充実事業の取組の結果、地域における本校の認知と理解が進んだ。その成果を生かし、地域や他校との交流及び共同学習、地域貢献活動をいっそう発展させる必要がある。 2 地域資源を活用するとともに、小規模校という特徴を良さとして生かし、学年・学部間が連携した学習活動を積極的に展開する必要がある。	
具体的な目標	次の3点について取り組み、児童生徒が将来地域で生きがいを持って社会参加するための基盤づくりを進める。 1 児童生徒の地域における活動と保護者との協働による地域貢献活動を積極的に展開し、感謝される経験を増やすとともに、地域に本校の取組を発信する。 2 居住地校交流を含む交流及び共同学習を積極的に推進するとともに、内容の工夫を図り、本校児童生徒への理解を推進する。 3 人材、事業所等の地域資源を活用し、学習活動の充実を図る。	
目標達成の ための方策	1 地域での活動の推進と取組の発信 小学部：地域の保育園とのさつまいも交流と収穫物のくまくま園への寄贈 中学部：あきたクリーンパートナーとしての活動と地域の老人保健施設でのボランティア活動 高等部：地域へのプランター設置・管理、秋田北鷹高等学校と共同の植栽活動 絆カフェ・ショップ、地域の老人世帯での除草・除雪ボランティアの推進と、中学部生徒との合同学習の推進 保護者：米代川花火大会、100kmマラソン大会への親子ボランティアにおける協働の推進 以上の取組についてホームページ等を活用して地域に積極的に発信する。 2 居住地校交流の推進 小学部児童の希望者全員と中学部生徒の居住地校との交流及び共同学習の実施 交流校での出前授業・地域学校展の実施と事前事後の打合せ・評価による互いにメリットのある学習の推進 3 地域資源の活用 農福連携マッチング事業、職域開拓促進事業の活用による農事組合法人での職場実習の推進と、地域の先生を含む専門性のある人材を活用した作業学習における技術指導、中学部・高等部合同学習による学び合いの推進	
具体的な取組 状況	1 地域での活動の推進と取組の発信 小学部児童が南鷹巣保育園園児とのさつまいもの苗植え、収穫の活動を通して交流及び共同学習を実施した。収穫したさつまいもの一部はくまくま園に寄贈した。 中学部ではあきたクリーンパートナーとして学校周辺の道路及びバス停の清掃ボランティアを定期的に（月1回）行った。また、地域の老人保健施設での除草ボランティアも定期的に行った。 北秋田地域の商店街等に秋田北鷹高等学校生徒と共同で植栽した100個のプランターを設置し、プランター管理の活動（3回）も行った。絆カフェ・ショップは地域のイベント、本校主催の芸術鑑賞会での出店に加え、地域の大型店でも行った。本年度は高等部生徒に加え、中学部生徒も参加した。 中学部・高等部合同の除草・除雪ボランティアを北秋田市社会福祉協議会と連携して実施した。暖冬の影響で除雪は1回しか（除草は3回）実施できなかった。 花火大会清掃ボランティアには50名が、100kmマラソン大会ボランティアには20名の親子・職員がボランティアとして参加した。 2 居住地校交流の推進 小学・中学部の希望者全員（9名）が延べ16回、いずれも各教科等の学習に参加した。事前の打合せと相手校のニーズに合わせた出前授業を行った。実施後、相手校と評価の打合せを行い、次年度に向けたそれぞれの課題等を確認した。 3 地域資源の活用 農福連携マッチング事業の指定を基に、地域の農事組合法人での実習を2名の生徒が延べ47日実施するとともに、職員・生徒が農作物の栽培について指導を受けた。そのほか、高等部の生徒がJAあきた北央、吉野農場などの農業の専門家からしそやシシトウの栽培と収穫について指導を頂き、それを中学部生徒に実際の作業を通して教えるなどの合同学習も行った。	D

達成状況	<p>1 地域での活動の推進と取組の発信</p> <p>小学部のさつまいも交流は双方が協力して作業できる活動として定着してきている。中学部のあきたクリーンパートナーとしての活動、老人保健施設でのボランティア活動で感謝される経験を重ねることで、生徒たちの積極的な姿勢が見られるようになった。また、地域の中学校特別支援学級生徒ともボランティアを通じた交流活動を行い、本校生徒の取組を地域の中学校に周知することができた。</p> <p>高等部が設置したプランターは北秋田地域の風物詩として定着している。プランター管理も含め、設置した商店会からは感謝の言葉が寄せられている。本年度は高等部生に加え、中学部生徒も絆ショップに参加した。学部を超えた取組を行うことで、保護者の関心が高まるとともに、上級生の活躍する様子を見て意欲的に取り組む中学部生徒の姿が見られた。</p> <p>暖冬の影響で除雪は1回しか実施できなかったものの、除草・除雪ボランティアでは、お年寄りから感謝の声が多く寄せられた。</p> <p>花火大会後の清掃、100kmマラソン大会等の親子ボランティアは保護者への呼びかけを積極的に行うことで、参加者数が増し、参加する学部にも広がりが見られた。</p> <p>2 居住地校交流の推進</p> <p>希望した全ての学校で出前授業を行い、事前の打合せで学習内容とねらいを明確にしたことにより、児童生徒の変容が見られる等、積極的な評価が相手校から寄せられている。</p> <p>3 地域資源の活用</p> <p>地域の先生を活用することで農業に関する知識と技術の高まりが見られた。主な農産物のしそ、シントウともに収穫量の大幅な増加と品質の向上が見られた。</p> <p>上記の活動を地域に発信するに当たり、ホームページを一新した。本校児童生徒の様子を紹介する「わかたかアルバム」は内容が分かりやすく更新回数も多い（6か月で80回）という肯定的な評価が保護者から多く寄せられた。</p>
------	---

自己評価	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絆カフェ・ショップは地域からの認知度が高く、地域のイベントからの出店依頼がよせられた。同時に行った地域学校展では来場者が本校の取組の様子に興味を持って見入っていた。中学部生徒が参加することで上級生と下級生の学び合いが生まれ、上級生としてのプライド、上級生へのあこがれという新たな伝統が芽生えつつある。 ・中学部生徒によるあきたクリーンパートナー活動、ボランティア活動は、感謝される活動として定着した。さらに、「花火大会清掃ボランティア」等他学部児童生徒の参加と保護者の協働へと発展し、定着してきた。 ・居住地校交流においては、事前・事後の学習や打合せ・評価を丁寧に行うことで、本校・相手校双方の児童生徒に変容が見られた。その結果として来年度の学習内容について相手校の担任から提案を受けるようになった。一方で、学年・学部が上がるに従って学習内容設定の難しさも見られた。 ・地域の人材を活用することで、作業学習全体の質が向上した。農産物の収穫量が増加したことにより、新たな6次製品の開発につながった。 <p>地域を舞台にした学習、地域への貢献については、ホームページで積極的に紹介するとともに、報道にも数多く取り上げられた。地域に関わる活動のほぼ全てが新聞記事に掲載され本校の児童生徒の理解促進に貢献した。</p>	C
------	--	---

学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校経営と確かな教育実践、積極的な交流活動が地域から高く評価され、大変好ましい傾向である。まさに「おらほの学校的存在」となっている。 ・地域での活動の広がりを強く感じる。除雪ボランティアは評判がよい。地域での活動を継続し、生徒たち一人一人が、地域の住民であることを体得させてほしい。 	C
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・絆カフェ・ショップ、地域貢献活動は今年度の実績を踏まえながら、次年度以降「絆プロジェクト」とし、各学部の教育課程の柱として計画的に展開していきたい。 ・居住地校交流については、事前事後の指導の充実も含め、今後も積極的に推進していきたい。中学部の学習内容については、参加する活動（総合的な学習の時間等）を早めに定める、事前に経験する内容を一定程度そろえる等の工夫をして、内容の充実を図りたい。 	A
-----------------------	---	---